

俱知安町景観計画・緑の基本計画検討会議

第3回 市街地景観検討部会 議事概要

◎日 時 令和2年12月11日（金） 午後2時00分～午後4時30分
◎場 所 俱知安町 中小企業センターホール
◎出席者 部会：辻井座長、峠ヶ委員、佐藤委員、金塚委員、本田委員、斎藤委員
※ 欠席（吉田委員、山田委員）
傍聴者：1名（オブザーバー 柏谷氏）
事務局：まちづくり新幹線課 遠藤景観室長、星加景観係長、八田主事
コンサルタント会社：(株)KITABA 百瀬、松田



1. 開会

2. 意見交換

(1) これまでの意見の振り返りと考えられる景観形成の方向性 ～駅舎や駅前広場、左右の軸について～

(本田委員)

- ・駅舎デザインコンセプト検討委員会で主に話している事項は駅舎のコンセプト、デザイン、広場空間の3つである。駅舎本体のコンセプトは来年3月までにまとめるが、都市施設や景観についての部分は、景観のルールや町全体のコンセプトの中で考えていくべきことであるため、本部会で検討すべきことと思う。
- ・検討委員会の中では、駅の正面から出て、駅前通りへの人の動線がどのようになるかを検討している。3パターン提案されている、いずれの提案も車中心の動線になっているのではないかという議論となった。そのうえで東口と西口の機能を整理し、どのような役割分担をしながら配置するかを考えるべきだ。
- ・駅の利用のために人を降ろすだけなら、駅の敷地に入る必要がないのではないか。そうすると交通広場のスペースはそれほど要らないのではないか。
- ・都市施設の設置場所について、事務局においては当初、高架下を検討していたようだが、賃料がかかってしまうなどの課題があり、駅舎の前面に設置することも含めて検討して

いると聞いている。駅舎本体のデザインは（デザインコンセプトを町から要望するものの、）鉄道運輸機構が建設することを考えると、仮に駅舎の前面に都市施設を用意するならば、駅前通りからみた実質的な駅舎のデザインは、都市施設が担うことになると考えられる。そうであるならば、駅舎本体に2階建て程度の都市施設を付けるようにしてはどうかという議論をしている。都市施設の設えについては本部会で議論していった方が一体感のある景観がつけられるのではないかと考えている。

（辻井座長）

- ・事務局から説明があったが、できれば南側に多目的広場を確保しながら眺望を保全するような大きな方向性が提案されている。
- ・本田委員からの駅舎デザインコンセプト検討委員会の報告として、交通広場と多目的広場を一体的に考えてレイアウトを詰めていきたいということかと思う。
- ・駅舎については、基本的に本部会の方向性とずれていないと思うので、羊蹄山への眺望や駅前通りの連続性がポイントとなると事務局も整理しているが、よろしいか。

（本田委員）

- ・みなさん概ね同じような意見かと思う。それらを整理したものがコンセプトになるのではないか。

（辻井座長）

- ・駅前広場については部会として大きな方向性を設定していきたい。交通広場については、駅前通りとの連続性をデザインしてほしいという意見もあった。
- ・広場を作るときは賑わいづくりとおもてなしの視点をきちんと含めたものとする、という考え方で整理しているがいかがか。

（峠ヶ委員）

- ・駅前広場は「賑わい」や「人が集まりたくなる場所」というテーマとなるとソフトの話になってしまい、曖昧な表現に感じる。駅舎デザインと同様に羊蹄山というコンセプトで合わせた方が良いのではないか。
- ・例えば「羊蹄山というテーマに合わせて景観をつくりましょう」と方向性を定めて取組んだ結果、賑わいが生まれたり、人が集まってくるのではないか。
- ・駅前広場に関しても駅舎と合わせてコンセプトが一つしっかりしたものが良かった方が良く思う。

（辻井座長）

- ・駅舎や交通広場は一体のデザインとなるので、それぞれのデザインと関わり方をうまくまとめるようなコンセプトを整理する必要がある。
- ・多目的な広場をどのような性格の空間にするか、使い方をどうするかは今後詰めていくことと思うが、日常的な賑わいは駅前通りに担ってもらい、落ち着いて過ごすような機能は駅前広場で受け止めるようなことも可能である。両方とも賑わいづくりを重視したものとするよりは、役割分担を考えていくことがこれからの進め方かと思う。

（佐藤委員）

- ・議論の前に、現在の駅前広場はどこを指しているのか。今は交通広場のみ、という認識で良いか。

（星加係長）

- ・現在は交通広場のみである。今後は、交通広場に加えて、滞留空間を設けることを考えている。

(佐藤委員)

- ・使い道は後々にできてくるものであると思う。
- ・倶知安のまちの特性から言っても、駅前広場は冬期は除雪した雪の置き場にもなると思う。しかし、雪置き場としてだけ使うのももったいないので、冬期に活用することを考えたい。
- ・夏場は憩いの場として、露店を作ったりするなど季節的な賑わいづくりができるかと思うが、夏期だけでなく冬期の使い方も考えていく必要がある。

(辻井座長)

- ・いろんな使われ方を含めて考えていくべきである。おもてなしの空間と日常的な駅前商店街のバランスをどのように取っていくかを考えていく必要がある。次回当たりには方向性が見えたなかで確認していくということになると思う。

(金塚委員)

- ・ハロウィンのとき、ニセコ駅に向かう坂にかぼちゃが置いてあり、かぼちゃをたどっていくと駅に着くようになっており良かった。かぼちゃがなかったら、坂を下がって駅があることも分からなかったのではないかと思う。
- ・倶知安だったら駅前通りに雪ダルマを点々と置いていき、駅に着くとさらにたくさんの雪ダルマがあるような楽しみがあると良い。歩いているときのわくわく感があり、視覚的にも駅に行けばもっと楽しいものが待っているような景観の演出ができると面白いかと思う。

(辻井座長)

- ・駅前通りと一体的につながっていくような景観づくりが必要ということかと思う。演出としても一体感が出ると良い。
- ・整備後は現在の都市緑地よりも広めの空間となる。駅前にそのような空間があるということは大事な財産となる。
- ・それぞれの広場をどういう性格の空間にするのか、どのような使われ方をするのか、さらに駅周辺は周りの都市景観も踏まえどのように調和させていくのかという議論が必要。高さの話もあるが、左右の軸も考えながら一体的に考えたいということかと思う。

(斎藤委員)

- ・先ほど星加係長から「基本的には駅前通りで賑わいづくりを担い、駅前広場とは役割分担をする」というような話があったが、その通りと思う。
- ・冬のシーズンと夏のシーズンでも様子は異なってくると思う。都市施設の充実度によって違うが、基本的には夏は何もないと人が集まらない。そのため、駅前広場はイベントなどで人を集める必要がある。さらにそこから駅前通りに人が流れていくような使い方ができるとよい。
- ・冬は観光客の乗降が多くなることが想定される。その際は、人溜まりができるので、それをうまく捌けるデザインとする必要がある。さらに、駅舎の中で倶知安の風景を360度見渡せる場所などがあればビュースポットとして使えるが、そのようなものが無いならば東側に降りて羊蹄山の写真を撮りたくなるのではないか。東側に人溜まりができた

ときに、どのようにさばくのかを考えなくてはいけない。

- ・冬は人が滞留する場所として人をどのようにさばくか、夏はイベントスペースへの活用と2つの面を考えなくては行けない。

(辻井座長)

- ・駅前広場については、駅前通りとの連続性を考えながらそれぞれの使われ方を含めた役割を整理していく方向性かと思う。
- ・今後、駅舎デザインコンセプト検討委員会での議論の踏まえて進めて行くべきことかと思う。

(本田委員)

- ・峠ヶ委員が「羊蹄山」のコンセプトについて言っていたが、全体的なまちのコンセプトがないと、駅前通りや国道5号、メルヘン通りなどそれぞれの位置づけは難しいのではないか。
- ・具体的に「賑わいとは何か」を考えると、お金が動くということが大事である。まちなか広場の実証実験では、多くの人が集まり、お金が動くということが分かった。まちなか広場にあったような機能が必要である。多目的広場と高架下をセットでまちなか広場のようなイメージのものを持ってくるようにしてはどうか。
- ・現在の自分たちの生活と10年後、20年後の生活がどのように変わっているかを考えなくては行けない。例えば、2030年に国はガソリン車を廃止すると言っているが、ガソリン車が廃止されたあと、どのような駐車場が必要か。そのようなものを勉強していかないと行けない。未来がどのような暮らし方になっているか、生活様式になっているかある程度勉強しながら作っていかないと行けない。過去のまちを作っても仕方ない。

(辻井座長)

- ・まちなか未来を見通すことが難しいという点もあるが、大きな未来に向けてという考え方は重要である。
- ・本日欠席された吉田委員、山田委員から事前に寄せられたご意見で、関連するものがあれば発言いただきたい。

(遠藤室長)

- ・吉田委員からは、駅から降りた左右の軸に植栽などの設えを設ければ、おもてなしという点では工夫できるのではないかといただいた。
- ・山田委員、吉田委員から、眺望よりも人の賑わいや経済活動を重視しながら検討していくべきと伺った。

(辻井座長)

- ・駅周辺は高さ制限を考えた方がよさそうだという意見もあった一方で、新幹線も通ることを考えると、今のような意見もある。一律に高さ規制をするというよりも、見えるところからの眺望を守るようなバランスをとることが必要であり、仕組みがあれば、それらはある程度調整可能であると個人的には思っている。
- ・今言ったように一律にどちらかを否定するかというよりも、魅力を損ねないで経済活動を回していくような視点が必要かと思う。

(2) 駅前通りの景観づくりについて

(辻井座長)

- ・商店街の在り方も含め、駅前通りの景観づくりについて議論させていただきたい。

(遠藤室長)

- ・山田委員からは街並みというよりは、人が歩きやすい歩道という基本的な部分が大切であると仰っていた。夏と冬の環境の変化を踏まえ、まずは歩きやすさを考え、それを基に課題を解決できれば人が集まってくるのではないかと。
- ・具体的にはセットバックなどと言うよりは、除雪の雪をどうするかが課題である。家や店先の間口除雪についても、駅前通りも歯抜け状態となっているので、除雪されていない箇所も見られる。道路側にある程度雪を積んでいき、道路管理者が排雪をするような取組も含めて、歩きやすさを考え、賑わいづくりにつなげていきたい。
- ・吉田委員、山田委員も言っていたが、駅前通りを歩くと、駅から国道5号まではかなり距離があり、人々は歩かないのではないかと。小樽の運河などの古い街並みは曲線があり、先を見通せないことで歩きたくなるようになっている。倶知安では駅前通りから2ブロック程度歩けばいい方ではないかと。
- ・吉田委員は、花や木で四季を感じさせながら、歩いてもらえる工夫があると良いと仰っていた。

(辻井座長)

- ・まちづくり提言書に4つほど頭出ししているが、歩く楽しみや賑わいづくりがあって、それに相応しい景観をどのように作っていくかということである。賑わいづくりを先行してやるというよりは、景観と併せて方向性を見定めながら、同じ方向を向いていこうというのが景観計画の狙いの一つでもある。

(金塚委員)

- ・確かに、うちの店までは歩かないだろうと思う。
- ・じゃが祭りくらいの賑わいでないと、国道5号まで来ないと思う。じゃが祭りの時でさえ、人は駅前通りの中央部分に集中している。

(辻井座長)

- ・駅前通りの景観づくりは少しずつ進めて行くことになると思うが、見ているとセットバックしているところにみどりを入れたり、環境づくりに配慮している方が多いように思う。

(金塚委員)

- ・除雪に関しては、住民からすると、「なぜここを除雪しないのか」と思うところもあり、自分ではキレイに除雪しているつもりでも、他人から見れば「どうしてもっとキレイにやらないのか」ということもあると思う。
- ・いまは黙認されているが、空き地があれば両端の人が半分ずつ除雪していこうというようなルールがあると良いかもしれない。これから観光客を迎えるためにはどうにかしていくべきと思う。

(辻井座長)

- ・冬の日常の暮らし方は、ルールの下支えになってくる。夏場の草花も同様である。暮ら

しの基本的なマナーも景観を形成していく仕組みの一つとして考えていくべきと思う。作るところとそれを継続的に上手に維持管理していく視点は推進方策の中で入れていく必要がある。

(峠ヶ委員)

- ・今までの駅前通りのコンセプトを踏まえて考えると、変わるものと変わらないものがあるのではないかと思う。「羊蹄山」や「歩きやすい道」など何十年経っても変わらないものと変わっていくものを分けないと、曖昧になってしまう。
- ・今自分は40歳であるが、今賑わっているところに行くとしても、30年後の70歳になった時にはそのような場所には行かないのではないかと思う。「羊蹄山が見える」や「除雪がしっかりしている」という変わらないテーマがあれば、70歳になっても景観として成り立っているのではないか。
- ・駅前通りを歩くかという、景観の工夫次第ではないかと思う。民と官でまちを管理していければ成り立つのではないかと思う。自分は千葉出身で曲線だらけのまちであった。札幌の駅前もまっすぐだが歩いている人が多い。歩きやすいし、歩く理由があるのではないか。例えば新しい役場ができ、そこに何か面白いものがあるなどの工夫があれば少し距離があっても歩くのではないか。

(辻井座長)

- ・風景や歩きやすさは普遍的な価値観であり、それが目に見える景観が良いというご意見かと思う。景観形成の方針につながるものである。
- ・今事務局から提案しているものは、あくまで実現するための切り口を出していただいたということである。

(斎藤委員)

- ・4月からこちらに来たので、イベントなどを見たことがない。お店も定休日で閉まっているのかと思っていたら閉店していたこともあった。今年は特殊な1年であると思うが、歩いている人は少なく見える。
- ・商店街は空いている店が少ない印象である。やはり魅力ある商業施設がないと人は来ないのではないかとどうしても思ってしまう。魅力あるお店ができれば、自然と人が歩くようになると思うが、通り沿いで土地をもっている外国人の方がお店を作ってくれるのを待っているのは時間がかかる。
- ・これからお店が建っていくことを想定して、そのときに建物の線が揃っていたり、電信柱がなかったり、歩いていて楽しいという街並みをつくっていくことが必要と思う。
- ・石蔵倉庫も賑わいの拠点となると思うので、そこから駅前通りに流れてくるように仕掛けを考えるとよいと思う。

(辻井座長)

- ・小ざれいになれば人が来るということでもなく、面白い過ごし方(コンテンツ)も立体的に作っていく必要がある。そのために景観形成の切り口は整理していきたい。

(佐藤委員)

- ・現状はかなり空き地があったり、今後、改修される場所もある。新幹線開業まで空地の塩漬けの状態が続くのではと思う。そのあと何が建つのかは心配される場所もある。

- ・メインの通りにおいて「羊蹄山が見えるように」「空の空間が見えるように」など変えて欲しくないものを強く意識していきたい。駅前通りをなんとかしたいという思いがあるので、駅前通りに面していない奥まったところに店舗の入り口があるというのは望んでいない。駅前通りに入口が面して顔になるように建物づくりをして欲しい。まちの住民はそう思っているので、「駅前通りの約束事」のようなものをこのような場で考えるべきである。そのためにも通りごとのイメージを考えるとよい。
- ・建物の高さや軒先の高さを揃えるというようなヨーロッパ的な街並みをつくる意識をつくることで、将来的にまちを歩く人が増えるかもしれない。
- ・半分まで歩行者道路にしたいという意見もあったが、その中でも通りを歩けるような道づくり、そのための仕掛けも考えていかななくてはいけないという意見もあった。将来どうなるかは分からないが、基礎となるような約束事を決めていくと良い駅前通りができるのではと思う。

(本田委員)

- ・斎藤さんが言ったように、将来のために、店を出したくなるような環境づくりが必要である。街並みというより道路の景観をどのように作っていくかが大切であり、建物のルールをどのように決めていくかが重要である。駅舎から駅前通りの連続性を踏まえて、植樹などで演出するなども必要である。
- ・人が集まるというためにはどうしたらよいのか。駅前で商売をしている方と話しをすると「駅前通り全部をそのような場所にするは無理」と言われる。人が集まるのはせいぜい駅から2ブロック程度ではないか。まずは石蔵倉庫もある1ブロックを重点的に整備すると、自然と人の賑わいは生まれてくる。そのときにはちゃんとした景観づくりルールがあった中で建築物を建ててもらいようにすればよい。現実的に考えると、5年後、10年後には今商売している人もいなくなる。その時に賑わいをつくる拠点が必要である。
- ・先ほど、高さの話があったが、例えば1ブロックごとに高さ制限を変えることもできる。まちの経済を考えるとインバウンド、交流人口を増やす必要があり、宿泊施設がないといけない。駅前の1画を宿泊空間とし、高さを高くし、羊蹄への眺望がある南面を中層低層とするなど、細分化して誘導していかななくてはいけないと思う。

(辻井座長)

- ・ご指摘の通り、一律にしていくというよりは、まちづくりのシナリオを考えたいうえで波及効果をどのように作っていくかを考えていこうという意味と思う。
- ・街区や建築の取り扱いを目的に応じて、決まりも別に定めるということと思う。商店街や駅舎周辺からの景観形成の連続性や方向性と絡んでくる話かと思う。少しずつ開発圧力をコントロールするためにも、シナリオづくり、このような取組が大事である。

(本田委員)

- ・ひらふ坂のロードヒーティングや無電柱化などの取組はやはり必要なことであった。歩く人は大切である。

(辻井座長)

- ・部会の中でも上手に活用して、賑わいづくりにつなげていきたい。

(3) 国道5号の景観上の課題について

(辻井座長)

- ・国道5号は電線の地中化が進むこともあり、街並みが露わになってくる。屋外広告物の話や眺望の話、空き家対策の話も出ている。それ以外にも郊外型の店舗も多いので駐車場の話も出てくるのではないかと思う。これを契機にして、景観づくりの方向性を出していきたいと思う。国道5号からの景観が重要であるというのは、皆さんの共通認識か。

(峠ヶ委員)

- ・広告物に関しては店ごとのことかと思うので何とも言えない。国道5号を通っていると駅前通りに行きたいのに、曲がる場所を通り過ぎてしまうとお客さんからよく聞く。賑わい中心が倶知安駅であるなら、賑わいに導く必要があると思う。新幹線と高速道路の賑わいのバランスを国道5号が握っているのではないかと思う。

(辻井座長)

- ・碁盤の目でできた街並みは分かりやすい反面、微妙と思われることもある。交差点の角のデザインにメリハリが大切というご指摘があった。方向性として必要かと思う。

(佐藤委員)

- ・設計の会社をやっているが、駅前通りから国道を越えた角の建物のデザインを考えているところである。1階と2階を貸店舗とし、3階を住居とすることを想定している。デザイン的に少し難しいかと思うところがある。3階からは羊蹄山がよく見える。ひらふ地区のコンドミニアムのようなものを作り、オーナーは晩年そこに住みたいという考えのようである。自分たちが関われるものから、一つでも景観に配慮した作り方、自然のみどりや石などを使った建物にしていきたいと考えている。

(辻井座長)

- ・景観上重要な結節点に配慮し、大切にしていこうという整理の仕方もある。
- ・案内サインだけでことを済ませるのではなく、この機会に倶知安らしい仕立て方、メリハリの付け方を位置付けられればと思う。

(佐藤委員)

- ・メインの交差点であり、大切なポイントである。

(本田委員)

- ・国道5号はみどりが少なく感じ、促すような連続性が感じられない。心理的に駅前通りに入りやすいような植栽などがあっても良い。
- ・国道は車もスピードを出しているのも、まちの中心が分からずに通り過ぎてしまうこともある。それを認識してもらうような仕組みがあると良い。
- ・個人的にはアーケードやゲートをつくるのも一つの方法であると思う。都通りの入口にはかつてアーケードがあったが老朽化に伴い撤去されてしまった。外すと寂しい感じがした。新しさの中にも倶知安の歴史として見せても良いのかもと思った。
- ・駅前を示すサインは小さくて分かりにくい。ロードサインの工夫が必要である。
- ・自転車道のサインのように、道路に青い色のサインで駅前まで誘導するなどの工夫もあるかと思う。

(辻井座長)

- ・駅周辺の検討事項に入ってくると思うが、サイン計画も重要な景観構成要素である。ストリートファニチャーも含め考えていく必要がある。国道などでは電線の地中化に伴い、キュービクルという制御盤が設置されているが、それらも歴史的な街並みだと色などを修景したりする。

(本田委員)

- ・ひらふエリアでは、横軸の通りに名前を付けている。基線通りやメルヘン通りのような名称があると、イメージが付きやすい。ソフト面の取組としてそのようなことも進められるとよい。

(斎藤委員)

- ・国道5号の交差点は駅前通りへの入口なので大切である。
- ・国道5号を走っていて羊蹄山がきれいで写真を撮ろうと思うと、建物が入ってしまいきれいに写真を撮れないので、尻別川まで行く必要がある。国道という性質状、沿道からの眺望はそこまで望んでも仕方ないのかとも思う。
- ・中山峠から羊蹄山を望むときに下に見えるうどん屋さんの看板はとても邪魔に思う。広告関係のもの、看板類は意識的に抑えられたらと思う。
- ・日本の国道沿いはチェーン店が多く皆似ているように感じる。倶知安の国道5号はドラッグストアと携帯電話の会社、ほっともっとコンビニしかなく、他のチェーン店はない。流通の関係上そのようなになっているのかと思うが、賑わいがないように見え、国道に関しては欠点にも思える。
- ・高速道路が来れば解決するのかもしれないが、それができればもう少し人が動く通りになるのではないか。

(辻井座長)

- ・土地利用は進めて欲しいが、メインストリートなので景観的な配慮も必要と思う。ただし一律にというのはなかなか難しいので、少しずつ景観を阻害するものは見直していこうよという視点から、広告物や眺望点についてメリハリをつけてつくり、みどりを整備していくような取組が考えられるかと思う。

(金塚委員)

- ・国道5号から駅前通りに行くのを目立たせるために、ゲートを置くことは賛成である。なぜ無くしてしまったのか。

(本田委員)

- ・錆びてしまったので、撤去してしまった。新たなアーチを検討したが、お金が無くてつくれなかった。アーチ自体は欲しいと考えている人はいるのではないか。
- ・昔のものの魅力もある。繁華街の街灯はオレンジである、古いような印象もあるが、昭和チックで良いと好評である。
- ・雪の障害もあるが、復活させても良いかと思う。

(辻井座長)

- ・一か所あるとメリハリも生まれるし、電柱もあつた方が風情があるという人もいる。風景を大切に場所ではない方が良いかと思うが、ヒューマンスケールで考えたときにあつた方がメリハリや風情を感じて良い場合もある。

(金塚委員)

- ・今は電飾の雪ダルマがあるが、古めかしいと思う。夜も光るのも良いと思うが、よくスタジアムなどにある五角形のフラッグがあると思うがそれはかなり目立つと思う。フラッグにすれば四季折々に変えられる。四季折々を見せつつ、目立たせるものがあればメリハリがあってよいと思う。
- ・国道5号は個人的にはチェーン店があって、倶知安の利便性にほっとする気持ちもある。北3条を境に北側は閑散としていて寂しく差が激しい。

(辻井座長)

- ・フラッグやバナーの話があったが、街並みは建物だけでなく付帯物の話も大切である。そのような切り口も含めて整理していければと思う。
- ・差し支えなければオブザーバーとして参加していただいている柏谷氏にお話しいただきたい。

(オブザーバー 柏谷氏)

- ・駅前広場について、まちなか広場の取組は可能性が感じられた取組の一つである。景観を考える上で、生業や暮らしがつくる日常とイベントなどの非日常の景観を考えると、まちなか広場のときは日常的には子育て世代が集まり、イベント時は多くの人が集まり「なにかやろう」という思いのある方がたくさんいた。小規模だからできたことやいろんな人が挑戦できた面もある。商売という面でも交流という面でも、人の動きを日常的に生み出し、休日になれば人を集める取組もできるので、まちなか広場のようなものが駅周辺にあると良い。
- ・交通量調査をしていたこともあるが、目的がないとぷらっとまで駅前通りを歩く人はほとんどいない。歩かせるためには、ぷらっとのあたりに駅から見たときに見える向きのアーケードもあってもよいかという話もあった。交差点の真ん中に木を植え、ロータリーのようにして、「アーケードのところまでなら行けるかな」と思ってもらえれば歩いてもらえるのではないかと話していた。
- ・高さについては商業施設を呼ぶなら宿泊施設も必要で、駅から北側はそのような施設も必要と思うが、南側は羊蹄山への眺望もある。駅前通りに面していない蔦屋ができるときに出ていた話であるが、一言に宿泊施設と言っても作りやどのようなものなのかで判断が変わってくるものもある。協議会のようなものがあって、事前協議をしながら大まかなルールを基に判断していければと思う。
- ・また、メルヘン通りは街灯も雪だるまが道路に映るようにしたものであったり、あえて統一感を持たせるように作った通りである。そのような通りが町民にとってどのように思われているかは、今後駅前通りを考えていくうえで参考になるのではないかなと思う。
- ・駅前通りはさらに来てほしいお店の誘致もしていけないといけない。どのような人が来てほしいかという取組、見せ方も必要である。
- ・新函館北斗の駅前は歩道を賑わいづくりのために広げたが建物が建たず、使えていない状況もある。駅前通りのお店に歩道側にテラス席を作ってもらうなど、歩道をどう使うか、どう使いこなすかのルールもあるとよい。誘導していくうえでは、歩道の使い方、緑化の仕方も示していくと良い。
- ・国道5号は羊蹄山の眺望を意識する景観と考えると難しいが、他のまちへ行った際に、

銀行とコンビニの外装が整っているまちは景観に配慮している地域だと感じられる。屋外広告物の色彩は取り掛かりやすく、印象付けられるものである。

3. その他

(星加係長)

- ・今後のスケジュールとしては、景観計画策定の親会議を年内に開催する予定である。ここでは地域別の方向性などを整理したい。今回の意見も踏まえ、頭出しをしていく。
- ・次回の駅舎デザインコンセプト検討委員会が1月27日で決定しているので、そこで都市施設や交通広場の配置イメージを議論していきたい。それらが出たうえでの景観形成の考え方の調整が必要と思うので、2月中旬に実施を予定している。

(辻井座長)

- ・駅舎の事業と並行して進めていることから、ここで議論した思いが形になっていくという意味では楽しみにも思える。調整は大変だと思うが、本部会で出た切り口を検討していきたいと思っている。

(遠藤室長)

- ・今後、駅舎も親会議としてコンセプトを整理していきたいと考えている。部会とも情報交換をしながら進めていきたい。

(本田委員)

- ・親会議の方で、主要な道路の緑化について話してほしい。姉妹都市のサンモリッツ市では道路の両端は広々とした芝生である。せっかく羊蹄山が見えるので、常にきれいにみどりは刈ってあるようにし「ニセコに来たんだな」と思うようなゲートとして整備するべきと思う。

(星加係長)

- ・町としても、軸としての考え方を示していきたいと考えている。軸となる部分を整理しつつ、シーニックバイウェイの取組もあるので、課題や道路の特徴を押さえながら、方向性を共有していきたいと思う。

(辻井座長)

- ・まち全体として田園景観や自然景観の話も含めて議論していきたいと思う。

4. 閉会